

る(図6)。このことより、医療現場での抗体検査の促進が感染の早期発見につながることで改めて示唆される。次に新規患者の当院への紹介もとを解析した(図7、8)。平成19-20年においては約3分の一が県外からの転居など、約3分の一が一般病院などからの紹介、残り約3分の一が保健所などからの紹介であったが、平成22年はやはり保健所からの紹介が減少している。これらからも早期発見例が減少していることが認められ、一番大切な早期発見早期治療が行なえてないことが示唆される。このままでは水面下での感染の拡大を招くこととなり、検査相談事業における一層の努力が必要である。

また最近の変化として薬物依存患者の増加が挙げられる。図9に示すごとく、新規患者の約4割が薬物の使用歴があり、今後MSMコミュニティ以外での感染の拡大も懸念される。

2) ブロック拠点病院機能の整備
B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

地方ブロックのエイズ医療向上のためには、ブロック拠点病院機能の充実も必要である。今回平成22年度より九州医療センターにおいては、組織横断的センターとしてAIDS/HIV総合治療センターを設立し、多くの診療科や多職種による横断的、有機的包括医療を行なうようになった。これはHIV医療が昨今大きな進歩をみせ、死の病から病気と共存できる時代となってきている一方、長期療養に伴う多くの合併症が問題となってきており、特に肝炎などの重複感染や癌の合併、歯科診療の重要性などが顕著となってきており、ひとつの科だけでは対応が困難となってきていることも理由の一つである。そこで当センターではHIVを専門に扱う免疫感染症科だけでなく、多くの科の専任の医師を配置し、ひとりの患者を多方面から専門的、集中的に診療するコンバインドクリニックとしての機能を持たせた。

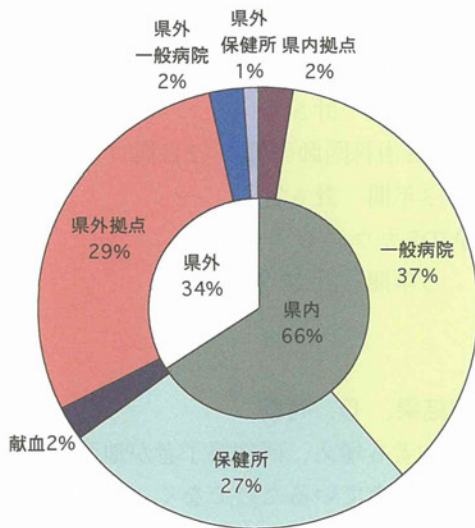


図7 紹介元 (H19-20)

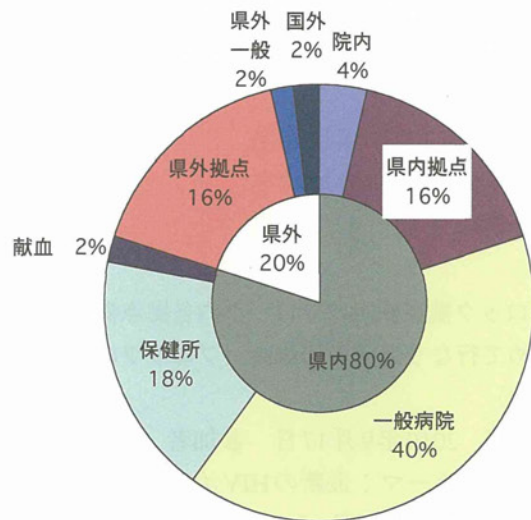


図8 紹介元 (H22)

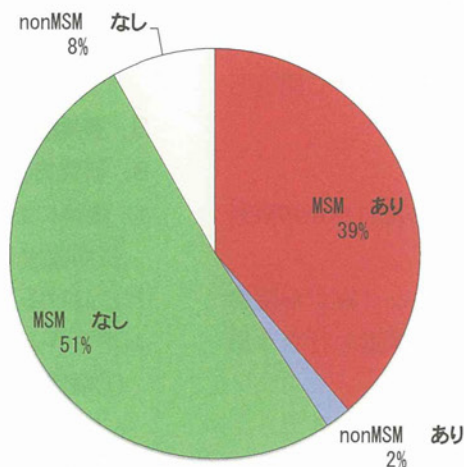


図9 平成24年新患における薬物(ラッシュ等含む)使用歴

さらに平成23年度にはセンター外来診察室として、プライバシー保護を重視した専用の個室診察室2室とそれに併置して専門の相談室2室に改築した。コンバインドクリニックとして患者は大きく動き回る必要なく、複数の科を総合的に受診できるだけでなく、その後のカウンセリングや保健指導、相談なども一度に受けることができる体制となった。

2. 地方におけるエイズ医療均てん化の試み

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

この研究班では長年種々の方法を用いて格差是正、均てん化を目指してきた。この3年間もブロック内各県の行政、中核拠点病院、各拠点病院の協力を得てブロック内のエイズ診療における均てん化を目的とした研修会を開催した。

1) 均てん化を目指した中核拠点病院連絡会議（中核拠点病院対象）

九州エイズ診療ネットワーク会議

参加者：九州ブロック中核拠点病院 医師・看護師・薬剤師・カウンセラー・MSW（2011年より参加）

2010年9月17日 参加40名

2011年10月14日 参加47名

2012年10月5日 参加50名

2) ブロック拠点病院にブロック内各拠点病院職員を集めて行なう通常の研修会（ブロック内拠点病院対象）

第30回 2010年9月17日 参加者 87名

テーマ：最新のHIV治療

第31回 2011年10月14日 参加者 79名

テーマ：エイジングケア

第32回 2012年10月5日 参加者 96名

テーマ：HAND

同時に多職種による症例検討会も合わせて開催した。

3) 九州ブロックエイズ出張研修会（地方拠点病院対象）

ブロック内の地方拠点病院へブロック拠点病院および中核拠点病院より医療チームを派遣し行なう出張研修。

・ 2010年10月22日

国立病院機構長崎医療センター

参加者 30名

・ 2011年8月17日

麻生飯塚病院 参加者 80名

・ 2011年10月21日

国立病院機構都城病院 参加者70名

・ 2012年8月17日

宮崎大学病院 参加者57名

4) 拠点病院職員実地研修

講演形式の研修会だけでなく、ブロック内拠点病院職員対象のエイズ診療における実地研修を当院にて行なった。また24年度より歯科医師、カウンセラー対象の実地研修も開始し、より一層チーム医療の充実を図った。

・ HIV/AIDS看護研修 (5日間コース)

3年間 計47名

・ HIV/AIDS医師研修 (2日間コース)

3年間 計13名

・ HIV/AIDS薬剤師研修 (2日間コース)

3年間 計16名

・ HIV/AIDS栄養士研修 (2日間コース)

3年間 計5名

・ HIV/AIDS歯科医師研修 (2日間コース)

3年間 計6名

・ HIV/AIDSカウンセラー研修

3年間 計22名

C. 研究結果、D. 考察

年々参加者も増え、研修終了者が地元で活躍するようになってきているだけでなく、専門職間の連携構築も行なわれ、地道ながらも実績を積み重ねてきているといえる。また今後は認定医師、認定薬剤師や認定看護師などの資格研修なども考慮していく必要がある。

3. 長期療養に伴う問題点の検討

B. 研究方法、C. 研究結果

1) 地域における包括的ケア連携の構築

長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、シンポジウムや出前研修を行なった。

①福岡HIV保健医療福祉ネットワーク会議

第26回～第31回シンポジウム

②福岡県HIV/AIDS出前研修会

地域の一般病院（二次病院）や施設を対象に患者受け入れ促進を目的とした研修会

(1) 歯科対象研修会

■日時：2010年8月27日

■場所：福岡大学 参加 20名

(2) 二次病院対象研修会

計4カ所 参加者計 520名

(3) 介護障がい者施設対象

計3カ所 参加者計 100名

2) 歯科診療ネットワーク構築の試み

長期療養においては特に身近な歯科診療が重要となってくる。行政との協力のもと歯科診療ネットワークを構築しようとしたが、歯科医師会の協力が得られなかったため、ブロック拠点病院を中心としたネットワークを構築した。まだ連携病院は少数であるが、今後少しずつ拡大していく予定である。

3) 合併症に対する専門機関との連携

九州ブロックにおいては長崎大学に重複感染患者における肝移植研究班、副作用研究班、長期療養研究班がおかれたのを機にこれらの専門グループと連携を深め、長期療養に伴う合併症に対する医療連携を強化した。

また薬物依存患者の増加に伴い、離脱プログラムをもつ専門病院（肥前精神医療センター）との連携も構築した。

D. 考察

地域における包括的医療を目指し、二次病院や施設などとの連携を深めるべくシンポジウムや出前研修を行なったが、まだまだ不十分な状況である。今後増え続ける患者対応のためには、拠点病院だけでこのような合併症まで対応することは困難であり、今後何らかの対策が必要であると考えられる。

4. 早期発見早期治療に対する試みと予防啓発

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

1) HIV感染予防対策とその推進

上述したように新規感染者の多くはMSMであり、これに対する予防啓発をコミュニティー「haco」の運営とともに行った。詳しくは男性同性間のHIV感染対策とその介入効果に関する研究報告書参照（市川班）

2) 行政、NGOとの協働

上述したように新型インフルエンザの影響もあり、検査相談事業が低調となり、発症前に診断される例が減少しているため、行政およびNGOと協同し、エイズ・性感染症対策推進協議会や福岡セクシャルヘルス懇談会を開催して、検査事業促進のため、エイズデーにおける特例検査会を開催した。またより地域に密着した連携を考慮し、福岡だけでなく、近隣の県においても行政と中核拠点病院の連携のもと検査環境改善のための保健所研修会が行われるように活動を行った。

3) STDクリニックとの協働

上述したようにSTDを契機として診断される例が増加しており、STDクリニックにおける検査促進は早期発見に有効と考えられる。そこで平成23～24年度にかけて、CBO（LAF）との協働のもとSTDクリニックにおけるMSM対象の検査を行った。その結果4～5%の陽性率で早期発見を行うことができた。

E. 結論

この3年間も九州ブロックにおけるHIV医療向上のため多くの研究事業を行ってきたが、上述したように長期療養に伴う問題など次々に多くの問題が噴出してきている。今後もこれらの課題を克服すべく、研究事業を展開していかなければならない。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

分担研究者 山本政弘

平成24年度

論文発表

- 1) エファピレンツ、テノホビル/エムトリシタピンを大量服用した症例の血中濃度推移について：大石裕樹、安藤仁、高橋昌明、高濱宗一郎、喜安純一、南留美、石橋誠、山本政弘 日本エイズ学会誌（1344-9478）14巻1号 Page42-45（2012.02）

口頭発表

- 1) 山本政弘、健山正男、田沼順子、飯田敏晴、高田清式、岸田修二：HIV関連神経認知障害（HAND）：診断の実際と今後の展開 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 2) 山本政弘：HIV感染症の長期療法成功のカギ～新しい治療コンセプトへの挑戦～ 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月26日 神奈川
- 3) 西島 健、高野 操、石坂美千代、湯永博之、菊池嘉、遠藤知之、堀場昌英、金田 暁、藤井 毅、内藤俊夫、吉田正樹、立川夏夫、横幕能行、藤井輝久、高田清武、山本政弘、松下修三、健山正男、田邊嘉也、満屋裕昭、岡 慎一：HIV感染症の初回治療でアタザナビル／リトナビルを固定してエブリコムとツルバダを無作為割り付けするオープンラベル多施設臨床試験：ET study 96週結果 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月24日 神奈川
- 4) 井内亜紀子、センチノ田村恵子、鈴木智子、須貝 恵、辻 典子、濱本京子、吉用 緑、山本政弘：ブロック拠点病院と中核拠点病院における連携の在り方について～中核拠点病院におけるチーム医療と研修の実績～ 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月24日 神奈川
- 5) 吉川博政、山本政弘、城崎真弓、長與由紀子、前田憲昭：当院における歯科医師、歯科衛生士HIV/AIDS研修プログラムについて 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月24日 神奈川
- 6) 牧園裕也、鷺山和幸、山本政弘、北村紀代子、塩野徳史：MSM対象のHIV/STI迅速検査会実施とCBOターゲットアプローチの考察 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 7) 中隈 碧、古賀雪子、高濱宗一郎、喜安純一、南留美、中嶋恵理子、城崎真弓、長與由紀子、首藤美奈子、辻麻理子、阪木淳子、山本政弘：経済的・社会的問題に支援が必要なHAND合併HIV患者に退院支援を行った一事例 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 8) 辻麻理子、阪木淳子、曾我真知恵、米山朋子、石坂昌子、長與由紀子、松尾聖磨、緒方 稔、長浦由紀、財津和宏、友枝紗記、藪内文明、泉真理子、久米信也、茂 志保、牧園裕也、野田雅美、齊藤和義、山本政弘：九州ブロックにおける自治体と中核拠点病院等が協働したHIV検査相談研修会実施のための体制整備を目的とする講師養成会議と研修会実施について 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 9) 波戸崎萌奈美、喜安純一、高濱宗一郎、南留美、山本政弘：HIV急性感染にHIV関連心筋炎を合併した一例 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 10) 野中彩沙、喜安純一、高濱宗一郎、南留美、山本政弘：筋肉内膿瘍との鑑別が困難であったHIV感染合併ALK陰性未分化大細胞型リンパ腫の一例 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 11) 高濱宗一郎、喜安純一、中嶋恵理子、南留美、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘：骨硬化症を呈したHIV感染者の一例 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月24日 神奈川
- 12) 堀場昌英、上平朝子、横幕能行、今村淳治、高濱宗一郎、山本善彦：HIV/HBV重複感染例におけるtenofovir/emtricitabineのHBV感染症に対する抗ウイルス効果及び免疫学的効果の検討 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 2012年11月26日 神奈川
- 13) 服部純子、椎野禎一郎、湯永博之、林田庸総、吉田 繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原 孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井 毅、岩本愛吉、西澤雅子、仲宗根正、岡 慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊 大、白阪琢磨、小島洋子、森 治代、中桐逸博、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦 互：新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性頻度の動向 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 14) 高橋真梨子、南留美、山本政弘：九州医療センターにおけるウイルス指向性検査 第26回日本エイズ学会学術集会・総会 平成24年11月25日 神奈川
- 15) 中嶋恵理子、土師正二郎、立川義倫、大島孝一、油布祐二：Hypereosinophilic syndrome as the initial manifestation of adult T-cell leukemia 第74回日本血液学会学術集会 2012年10月20日 京都
- 16) 村田 昌之、古庄 憲浩、南留美、小川 栄一、光本富士子、迎 はる、大西 八郎、豊田 一弘、貝沼 茂三郎、岡田 享子、山本 政弘、林 純：HBV/HIV重複感染例に対する抗HBV療法についての検討 第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会 2012年11月5日～11月7日 福岡

平成23年度

1. 論文発表

原著欧文

- 1) Rumi Minami, Masahiro Yamamoto, Soichiro Takahama, Hitoshi Ando, Tomoya Miyamura, Eiichi Suematsu : Comparison of influence of four classes of HIV antiretrovirals on adipogenic differentiation: the minimal effects of raltegravir and dolutegravir. *J Infect Chemother* 17 183-188, 2011
- 2) Watanabe D, Ibe S, Uehira T, Minami R, Sasakawa A, Yajima K, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Yamamoto M, Kaneda T, Shirasaka T : Cellular HIV-1 DNA levels in patients receiving antiretroviral therapy strongly correlate with therapy initiation timing but not with therapy duration *BMC Infect Dis.* 24;11:146, 2011

2. 学会発表

- 1) Rumi Minami, Soichiro Takahama, Junichi Kiyasu, Masahiro Yamamoto : The Effect of Antiretroviral Drugs on Adiponectin R1/R2 Receptor in Hepatocytes with and without HCV Infection. The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific August 26 - 30, 2011, Busan
- 2) 後藤敏孝、高田 徹、佐藤栄一、尾畑由美子、田村和夫、南 留美、山本政弘：皮膚病変と下部消化管病変を伴い抗レトロウイルス療法開始後に消滅したCD30陽性T細胞増殖性疾患のエイズの1例 第85回日本感染症学会総会 平成23年4月21日 東京
- 3) Author：村田昌之（九州大学病院 総合診療科）、古庄憲浩、小川栄一、平峯 智、竹嶋功人、大西八郎、谷合啓明、南留美、山本政弘、林 純：福岡市におけるHBV/HIV重複感染例についての検討 第85回日本感染症学会総会 平成23年4月21日 東京
- 4) 高濱宗一郎、喜安純一、南 留美、山本政弘：HIV感染症と血清尿酸値との関連性 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 5) 服部純子、椎野禎一郎、瀧永博之、林田庸総、吉田 繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原 孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井 毅、岩本愛吉、西澤雅子、仲宗根正、岡 慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊 大、白阪琢磨、小島洋子、森 治代、中桐逸博、高田 昇、木村昭郎、南 留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦 互：

新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性頻度の動向 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京

- 6) 大石英樹、石川奈緒子、南 留美、高濱宗一郎、喜安純一、石橋 誠、山本政弘：HCV/HIV重複感染例においてINFの治療効果に影響を及ぼす因子の改正器 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 7) 南 留美、高濱宗一郎、喜安純一、山本政弘：抗HIV療法による血清中AGE(advanced glycation endproducts)および酸化ストレスマーカーの変化 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 8) 新ヶ江章友、塩野徳史、金子典代、牧園裕也、請田貴史、川本大輔、北村紀代子、辻 潤一、橋口卓、狭間隆司、山本政弘、市川誠一：福岡のゲイ商業施設利用者を対象としたHIV/AIDSをめぐる啓発活動効果評価 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年12月1日 東京
- 9) 塩野徳史、新ヶ江章友、金子典代、市川誠一、山本政弘、健山正男、内海 真、生島 嗣、鬼塚哲郎：ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年12月1日 東京
- 10) 西島 健、高野 操、石坂美千代、瀧永博之、菊池嘉、遠藤知之、堀場昌英、金田 暁、藤井 毅、内藤俊夫、吉田正樹、立川夏夫、横幕能行、藤井輝久、高田清武、山本政弘、松下修三、健山正男、田邊嘉也、満屋裕昭、岡 慎一：HIV感染症の初回治療でアタザナビル/リトナビルを固定してエプジコムとツルバダを無作為割り付けするオープンラベル多施設臨床試験：ET study 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年12月1日 東京
- 11) 喜安純一、高濱宗一郎、南 留美、山本政弘：HIV感染に合併した劇症型サイトメガロウイルス感染症の一救命例 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 12) 辻麻理子、大城市子、吉元なるよ、井村弘子、渡久山朝裕、今村葉子、飯田昌子、浅井いづみ、徳田由香、柳田哲弘、大嶋美登子、江崎百美子、緒方 积、青山のぞみ、才津文子、堀川悦夫、松島 淳、長浦由紀、村上ゆき、阪木淳子、山本政弘：九州ブロックにおけるカウンセリング体制整備の実践 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 13) 辻 典子、田村恵子、鈴木智子、須貝 恵、小塚雅子、井内亜紀子、濱本京子、吉用 緑、山本政弘：エイズ拠点病院から地域医療機関への患者紹介の現状 その1～拠点病院から一般病院へ

の紹介～ 第25回日本エイズ学会学術集会総会
平成23年12月1日 東京

- 14) 吉用 緑、辻 典子、田村恵子、鈴木智子、須貝恵、小塚雅子、井内亜紀子、濱本京子、山本政弘：エイズ拠点病院から地域医療機関への患者紹介の現状 その2～拠点病院から診療所／クリニックへの紹介～ 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年12月1日 東京
- 15) 平賀紀行、高久陽介、大槻知子、柿沼章子、大平勝美、山本政弘：HIV感染者によるエイズ対策への参画 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京
- 16) 渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、味澤 篤、今村顕史、菅沼明彦、濱口元洋、横幕能行、南留美、高濱宗一郎、白野倫徳、後藤哲志：急性HIV感染症における他のウイルス感染症との関連性の検討 第25回日本エイズ学会学術集会総会 平成23年11月30日 東京

平成22年度

原著論文

- 1) Minami R, Yamamoto M, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E : High molecular weight form of adiponectin in antiretroviral drug-induced dyslipidemia in HIV-infected Japanese individuals based on in vivo and in vitro analyses Intern Med. 2009;48(20):1799-875. Epub 2009 Oct 15.
- 2) Minami R, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E, and Yamamoto M : Human herpesvirus 8 DNA load in the leukocytes correlates with thrombocytopenia in HIV-1 infected individuals." AIDS Res Hum Retroviruses. 25(1), 1-8, 2009

原著和文

- 1) 南留美、高濱宗一郎、安藤仁、山本政弘：治療後ウエスタンプロット法にて抗HIV抗体が陰性化し持続しているHIV感染症の一例 感染症学会雑誌 83(3),251-255,2009

学会発表

- 1) Miinami R, Takahama S, Ando H, Yamamoto M : The effect of antiretroviral drug on the lipid metabolism in hepatocytes with and without HCV infection. 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), in Bali, Indonesia from 9-13 August 2009
- 2) Akitomo Shingae, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Yuya Makizono, Daisuke Kawamoto, Toshihiro Nino, Shiro Hamada, Suguru Hashiguchi, Kiyoko Kitamura, Masahiro Yamamoto, Seiichi Ichikawa : CharacteriSTDcs of MSM who are 'Inconsistent'

and 'Non-Condom Users': Findings of the Gay Bar Survey in Fukuoka, Japan. ICAAP 2009. 8. 14, Bali, Indonesia

- 3) 安藤 仁、高濱宗一郎、南留美、山本政弘：Poncet's disease 合併が疑われたHIV感染症の1例 第83回日本感染症学会総会・学術講演会 平成21年4月23日 東京
- 4) 山本政弘：シンポジウム「HIV感染対策におけるパートナーシップ自治体とNGOの協働」 「NGOと地方行政の連携」 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 5) 山本政弘：サテライトシンポジウム「HIV陽性者のメンタルヘルスへのアプローチ～心理職が目指す予防とケアについての検討 その1～」～精神科の連携について～内科医の立場から 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月26日 名古屋
- 6) 川本大輔、樋脇 弘、高橋真梨子、南留美、山本政弘：福岡地域におけるHIV感染者およびAIDS患者から分離されたHIVの遺伝子解析 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 7) 高濱宗一郎、安藤 仁、南留美、山本政弘：RAL/ATV/RTVによるダブルブースト療法が奏効した吸収不良HIV感染症の1例 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 8) 新ヶ江章友、金子典代、塩野徳史、牧園祐也、川本大輔、新納利弘、濱田史朗、橋口卓、北村紀代子、山本政弘、市川誠一：福岡におけるゲイ向け商業施設利用者を対象とした質問紙調査 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 9) 服部順子、渦永博之、吉田 繁、(略)、南留美、山本政弘、(略)、杉浦 互：2003-2008年の新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性頻度の動向 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 10) 菊池 嘉、岩本愛吉、佐藤典宏、伊藤俊広、田邊嘉也、横幕能行、上田幹夫、渡邊 大、藤井輝久、南留美、宮城島拓人、建山正男：多施設共同疫学調査におけるHAARTの有効率 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 11) 南留美、高濱宗一郎、安藤 仁、山本政弘：抗HIV剤はHBV感染肝細胞における肝脂質代謝を促進する 第23回日本エイズ学会学術総会 平成21年11月28日 名古屋
- 12) 牧園祐也、請田貴史、川本大輔、北村紀代子、狭間隆司、濱田史朗、橋口卓、山本政弘、吉用緑：福岡地域における男性同性間のHIV感染対策とその推進—CBO「Love Act Fukuoka(LAF)」

の啓発活動の展開とコミュニティセンターhaco
の有用性についてー 第24回日本エイズ学会学
術総会 平成22年11月25日 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし



歯科の医療体制整備に関する研究

研究分担者 前田 憲昭

医療法人社団皓歯会 理事長

研究協力者 北川 善政¹、長坂 浩²、大多和 由美³、田上 正⁴、池田 正一⁵、
高木 律男⁶、宇佐美 雄司⁷、有家 巧⁸、連 利隆⁹、宮田 勝¹⁰、
柴 秀樹¹¹、吉川 博政¹²、樋口 勝規¹³、溝部 潤子¹⁴、
大西 正和¹⁵

¹北海道大学大学院 教授

²国立仙台医療センター 歯科口腔外科 部長

³東京歯科大学水道橋病院 障害者歯科 准教授

⁴国立国際医療センター 歯科口腔外科 医長

⁵神奈川歯科大学 客員教授

⁶新潟大学大学院 教授

⁷国立名古屋医療センター 歯科口腔外科 部長

⁸国立大阪医療センター 歯科口腔外科 部長

⁹大阪市囁託

¹⁰石川県立中央病院 歯科口腔外科 部長

¹¹広島大学病院 歯周病科 講師

¹²国立九州医療センター 歯科口腔外科 部長

¹³九州大学病院 教授

¹⁴神戸常盤大学短期大学部

¹⁵日本歯科技工士会

研究要旨

HIV感染者の予後の改善は、患者数の増加と高齢化をも意味している。改善と表現されるには生活の質の維持がなければ意味が無い。口腔衛生管理は生活の質を維持するうえで、必要な要素の1つであり、そのためにはあらゆる年代で適切な治療と、加齢による機能低下に対する先を読む予防処置が必要である。このことはすべての国民に共通であるが、HIV感染者にも等しくこの機会を提供することは歯科医療の責務と考える。一方、歯科医療を支えるためには、①HIV感染症の正しい情報を継続して歯科医療従事者に提供すること、②針刺し切創において、現場での適切な対応の知識と行動力の獲得、加えて地域エイズ治療拠点病院における予防服薬の提供とカウンセリングシステムの提供、が必要となる。研究班は中核拠点病院歯科の指導力向上と、その責務としての上記2点の達成のための基本的な意識付けを行ってきた。HIV感染症を地域で予防、検査、診断、治療を担う中核拠点病院が、全国のすべての地域で、病院長以下、病院一丸となって与えられた責務に取り組み、結果として、HIV感染症の拡大が阻止されるまで、本研究班が下支えを行っていく。

A. 研究目的

1：中核拠点病院歯科の役割を強化する

- 都道府県単位のHIV感染者歯科診療体制の構築
- 地域の特性に応じた 持続的 支援体制
- 当該歯科医師会との連携 知識 技術の提供
暴露事故（針刺し切創）での受け入れ体制の提供

2：歯科医療を支える医療従事者への情報提供と協力 依頼

- 歯科衛生士養成機関における
Standard Precautions の教育
- 歯科技工士養成機関における
Standard Precautions の教育

B. 研究方法

1：中核拠点病院の機能強化

- 都道府県単位での歯科医療ネットワークの構築
 - 針刺し事故等におけるバックアップ体制の構築
- 方法 歯科診療ネットワーク構築と 歯科院内感染防御の知識・技術の均てん化会議の開催
対象：
地方自治体 歯科医師会 中核拠点病院
拠点病院
講義実習：拠点病院職員 歯科医師会会員
主たる内容 Standard Precautions 実施への知識と工夫普及への教育資源の提供

C. 研究結果

平成22年度に実施した地域

| | | | | | |
|-----------|----|-----|----|----|-----------|
| 九州北ブロック | 福岡 | 長崎 | 佐賀 | 大分 | 7月23,24日 |
| 北海道ブロック | | 旭川 | | | 9月3,4日 |
| | | 札幌 | | | 11月6日 |
| 関東甲信越ブロック | | 新潟県 | | | 10月30,31日 |
| 東海ブロック | | 愛知県 | | | 12月12日 |
| 中四国ブロック | | 広島県 | | | 2月6日 |
| 東北ブロック | | 秋田県 | | | 3月6日 |

平成23年度に実施した地域

| | | |
|-----|--------------|-------|
| 鳥取県 | ネットワーク構築会議 | 8月4日 |
| | 鳥取市 鳥取県歯科医師会 | |
| | 「均てん化講演会」 | 9月25日 |

鳥取市 鳥取県歯科医師会

米子市 鳥取大学 11月23日

北海道南部地区 函館市 12月11日

広島県ネットワーク講習会 広島大学

広島県歯科医師会 11月27日

九州地区ネットワーク構築会議Ⅱ

熊本県 宮崎県 鹿児島県 3月10日11日

首都圏拠点病院および歯科診療ネットワーク会議

東京歯科大学 23年1月7日

平成24年度に実施した地域

中国・四国ブロック 拠点病院会議 10月28日

近畿ブロック 大阪府歯科医師会

ネットワーク構築会議

12月9日

北海道ブロック 東部 釧路地区 25年2月16日

構築のための会議を開催した都道府県

沖縄県、宮崎県、鹿児島県、熊本県、大分県、長崎県、佐賀県、福岡県、広島県、鳥取県、岡山県、大阪府、愛知県、神奈川県、新潟県、群馬県、千葉県、長野県、秋田県、北海道（札幌、旭川、函館、釧路）

歯科医師会を軸にネットワーク構築が完成した地域

東京都（83か所） 神奈川県
広島県（123か所） 北海道（23か所）
大阪府（144か所）

構築の初期段階にある地域

愛知県 鳥取県 島根県 徳島県
ネットワーク会議の開催希望
福島県 中核拠点病院（福島県立医科大学）
京都府 中核拠点病院（京都大学）

歯科医療を支える部門への働きかけ

歯科衛生士養成機関指導者セミナー実施
平成23年度 14校
10月15日 16日 大阪
歯科技工士養成機関指導者セミナー実施
平成24年度 15校
9月2日 3日 広島

D. 考察

研究班が想定している歯科受診の実態

- 1: ネットワークを利用する
 - 治療を受けている病院 → その病院の歯科
 - ↓
 - ネットワーク → 地域の開業歯科医
 - ↑
 - 患者支援NGOのネットワーク
- 2: HIV治療を担当する病院が独自でネットワーク構築（国立九州医療センター）
 - 治療を受けている病院 → 地域の開業歯科医
- 3: 病院の医師の個人的繋がりで紹介を行っている
 - 治療を受けている病院 → 地域の開業歯科医
- 4: 患者さんが自分で選択して歯科受診
 - 患者さん → 地域の開業歯科医
 - HIV感染を告知して受診できる場合
 - HIV感染を告知できずに受診している場合

E. 結論

ネットワーク活動は一方通行ではない。拠点病院で診療するHIV感染者を、患者が居住する生活圏の開業歯科に紹介するシステムに加え、地域の歯科医療機関は、受診する患者の口腔症状から、HIV感染を疑う所見に遭遇した場合、このネットワークを利用して検査受診を勧める活動が可能となる。慶応大学の加藤は、日本国内では、HIV感染者の36%は自分の感染を認知していないと推測している（第26回日本エイズ学会）。歯科医療には、HIV感染症において、果たせる役割の大きいことを継続して啓蒙する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

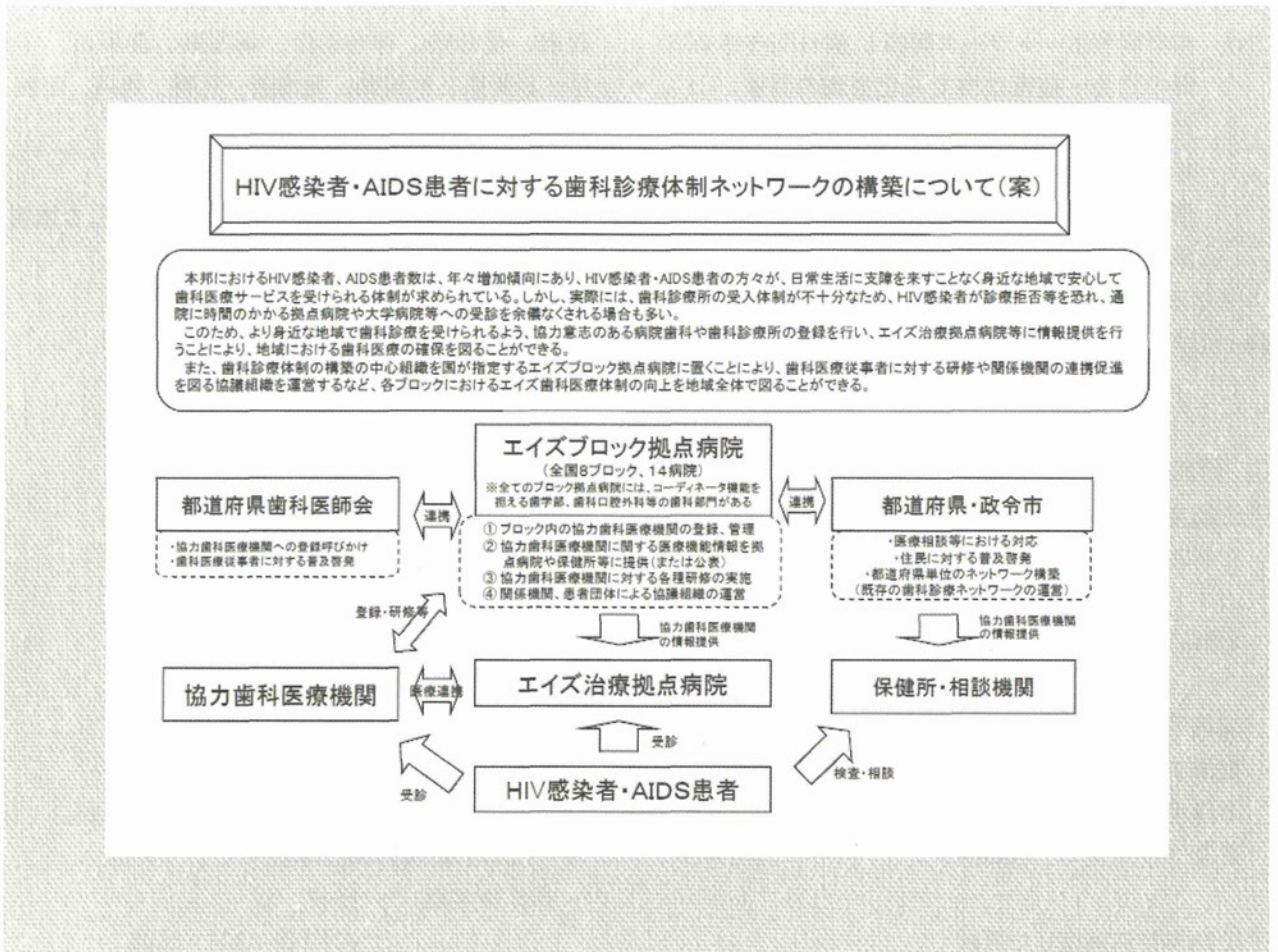


図1 歯科診療ネットワーク構築構想案

G. 研究発表

平成22年度

口頭発表

- 1) 池野 良、永田昌毅、児玉泰光、村山正晃、高木律男：HIV-1感染者における唾液中ウイルスの定量的研究 第55回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会 千葉市 2010年10月 日本口腔外科学会
- 2) 前田憲昭、溝部潤子：Standard Precautions を浸透させるための歯科診療手技の解析 第24回日本エイズ学会2010年 東京
- 3) 能島初美、前田憲昭、溝部潤子、中川祐美子、中野恵美子、三村文子、藤本千夏、趙春麗、山本裕佳：HIV協力歯科診療所に勤務する歯科衛生士の意識調査 第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 4) 宮田 勝、高木純一郎、能島初美、山本裕佳、山田三枝子、辻典子、下川千賀子、上田幹夫、池田正一、前田憲昭：ブロック拠点病院におけるHIV歯科診療体制整備のための研修会の現状と課題、第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 5) 宇佐美雄司、菱田純代、横幕能行、横井基夫、荻野浩子：HIV感染の蓋然性としての口腔カンジダ症状についての考察 第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 6) 村山正晃、池野 良、児玉泰光、田邊嘉也、川口玲、山崎さやか、加藤真吾、高木律男：唾液中ウイルスと血中ウイルスの定量値とウイルスRNA鎖の比較 第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 7) 中川裕美子、松野智宣、菊池 嘉、岡 慎一：当院におけるHIV感染症患者の抜歯後合併症に関する検討 第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 8) 筑丸 寛、上田敦久、光藤健司、小森康雄、泉福英信、金子明寛、池田正一、白井輝、石ヶ坪良明、藤内 祝：HIV感染者の歯科診療の推移—HAART導入の前後における検討— 第24回日本エイズ学会 2010年 東京
- 9) 山田和代、小久保睦代、松本貴久美、柴田亨子、池山豊子、前田憲昭：愛知県歯科衛生士会における院内感染予防アンケートについて 2010年 第5回日本歯科衛生学会 千葉
- 10) 溝部潤子、中野恵美子、能島初美、中川裕美子、趙春麗、藤本千夏、三村文子、前田憲昭：HIV陽性者への歯科受診実態調査結果における歯科衛生士の役割 2010年 第5回日本歯科衛生学会 千葉
- 11) 三村文子、中野恵美子、能島初美、溝部潤子、中川裕美子、藤本千夏、趙春麗：エイズ協力歯科診療所事業に従事する歯科衛生士の意識調査 2010年 第5回日本歯科衛生学会 千葉

平成23年度

原著論文(和文)

- 1) 前田憲昭：HIV感染症/AIDSと口腔病変 HIV感染症とAIDSの治療 Vol.2 No.1, 78-80, 2011
- 2) 佐藤 淳、杉浦千尋、北川善政：HIV感染症の口腔病変と歯科治療 HIV感染症 診断・治療・看護マニュアル 改訂第8版 北海道大学病院 HIV感染症対策委員会 平成23年12月

口頭発表

国内学会発表

- 1) 山口 泰、仁木孝行、伊藤俊広、山本善彦、佐藤功：拠点病院における歯科治療の意義—多発カリエス患者とチームアプローチの検討 第25回日本エイズ学会 東京 2011
- 2) 宇佐美雄司、菱田純代、横幕能行：「いきなりAIDS」事例における口腔症状の検討 第25回日本エイズ学会 東京 2011
- 3) 村山正晃、池野 良、児玉泰光、田邊嘉也、川口玲、山崎さやか、加藤真吾、高木律男：HIV陽性者の唾液中に存在するウイルスRNAの完全性に関する研究 第25回日本エイズ学会 東京 2011
- 4) 筑丸 寛、上田敦久、光藤健司、小森康雄、泉福英信、金子明寛、池田正一、松井周一、友田安政、竹林早苗、松山奈央、白井輝、石ヶ坪良明、藤内 祝：HIV感染者が口腔ケアを受ける際のモチベーションにかかわる要因の検討 第25回日本エイズ学会 東京 2011
- 5) 池野 良、村山正晃、児玉泰光、高木律男、加藤慎吾：新潟大学顎顔面口腔外科で行ったHIV感染者の唾液研究—新しい発見と今後の展望— 第12回日本HIV歯科医療研究会 東京 2011年1月8日
- 6) 村山正晃、池野 良、永田昌毅、高木律男：HIV-1陽性者の唾液中に存在するウイルスRNAの完全性に関する研究 平成23年度新潟歯学会第2回例会 新潟市 2011年11月12日 平成23年度新潟歯学会 2011年
- 7) 村山正晃、池野 良、児玉泰光、田邊嘉也、川口玲、山崎さやか、加藤真吾、高木律男：HIV-1陽性者の唾液中に存在するウイルスRNAの完全性に関する研究 第25回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 2010年11月30日-12月2日 第25回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集 178頁 2011年
- 8) 高木律男：院内感染対策講習会「歯科診療における清潔不潔 新外来棟での感染対策を踏まえて」 医学部401講義室 新潟市 2011年7月1日

- 9) 高木律男：日本歯科大学新潟生命歯学部 第4回口腔外科懇話会「HIV感染と歯科医療」 日本歯科大学 新潟市 2011年9月10日
- 10) 高木律男：燕歯科医師会学術講演会「HIVの最新動向と感染症患者の歯科治療について」 巻保健センター多目的ホール 新潟市 2011年11月26日

平成24年度

○冊子刊行

- 1) 前田憲昭、溝部潤子、大多和由美、宮田勝、宇佐美雄司、吉川博政、柴秀樹、有家巧、高木律男、北川善政、秋野憲一、池田健太郎：「HIV感染者の歯科医療の充実に向けて」 歯科医師研修資料 歯科の医療体制整備 2012年9月

○論文

- 1) 前田憲昭、大西正和：補綴物製作過程における感染対策2012年 QDT 第37巻 9巻 22-43 2012 クインテッセンス出版株式会社 2012年9月
- 2) 中川裕美子、松野智宣、丸岡豊、菊池嘉、岡慎一：当院におけるHIV感染症患者の抜歯後合併症に関する検討 日本エイズ学会誌第14巻2号 106-109 2012年
- 3) 大西正和：受注石膏模型に対する実践的感染対策」テクニカルエッセンス 社団法人大阪府歯科技工士会「大歯広報」 2012年8月
- 4) 山本裕佳、能島初美、宮浦朗子、奥山美有紀、大橋由紀子、越田美和、宮田勝、高木純一郎、名倉功、山田三枝子、辻典子、上田幹夫、前田憲昭：HIV診療における北陸地区歯科衛生士の意識調査 石川県立中央病院医学誌 第34巻 33-36 平成24年9月
- 5) 大西正和：印象体に対する実践的感染対策－スタンダードプリコーション20年の継続－（広島県広島市）日本歯科技工学会第34回学術大会 2012年8月26日
- 6) 前田憲昭、加藤真吾、的野慶、溝部潤子、中川裕美子、池野良：院内ポスターを活用した検査へ繋げる歯科診療 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 7) 吉川政博、山本正弘、城崎真弓、長与由紀子、前田憲昭：当院における歯科医師、歯科衛生士HIV/AIDS研修プログラムについて 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 8) 有家巧、山本浩貴、吉川正幸、鹿野学：大阪医療センター歯科口腔外科におけるHIV感染症歯科診療の実態 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 9) 宇佐美雄司、菱田純代、上田実：HIV感染症についての歯学部教育の実態 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 10) 大多和由美、千葉緑、池田正一、前田憲昭：東京都および神奈川県エイズ拠点病院歯科治療に関するアンケート調査第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 11) 松井加奈子、柴秀樹、鍵浦文子、木下一枝、西坂理絵、岩田倫幸、高田昇、斎藤誠司、藤井輝久：広島大学病院におけるHIV陽性者の歯科医療への取り組み 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 12) 宮田勝、能美初美、高木純一郎、山本裕佳、上田幹夫、山田三枝子、辻典子、前田憲昭：拠点病院と歯科診療所との連携に関する考察 第1報、当院における歯科診療の現状、第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川
- 13) 能美初美、宮田勝、高木純一郎、山本裕佳、上田幹夫、山田三枝子、辻典子、前田憲昭：拠点病院と歯科診療所との連携に関する考察 第2報 第26回日本エイズ学会 2012年11月24日 神奈川

□頭発表

- 1) 前田憲昭、大西正和：「歯科技工領域におけるHIV感染症」平成24年度 関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会 2012年8月4日 大阪ガーデンパレス 大阪
- 2) 前田憲昭：中四国ブロック拠点病院 第3回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議 2012年10月28日 広島
- 3) 前田憲昭：大阪府HIV感染者等歯科診療連携体制構築事業における協力歯科診療所向け研修会 2012年12月8日 国立大阪医療センター 大阪
- 4) 三村文子、藤本千夏、能島初美、中川裕美子、浅井絵美、溝部潤子：歯科衛生士養成機関を対象としたバリテクニック教育方法の研修会にあり方についての検討 日本歯科衛生学会 2012年9月16日 盛岡

参考資料

平成22, 23, 24年度
厚生労働省エイズ対策研究事業

HIV感染症の医療体制の
整備に関する研究

歯科のHIV診療体制整備
前田憲昭

歯科の医療体制整備 班の活動目標

- 1: 中核拠点病院歯科の役割を強化する
都道府県単位でのHIV感染者歯科診療体制の構築
地域の特性に応じた 持続的 支援体制
当該歯科医師会との連携
知識 技術の提供
暴露事故(針刺し切創)での受け入れ体制の提供
- 2: 歯科医療を支える医療従事者への情報提供と協力依頼
歯科衛生士養成機関におけるStandard Precautions の教育
歯科技工士養成機関におけるStandard Precautions の教育

中核拠点病院の機能強化

目的
都道府県単位での歯科医療ネットワークの構築
針刺し事故等におけるバックアップ体制の構築

方法 歯科診療ネットワーク構築と
歯科院内感染防御の知識・技術の均てん化会議の開催

構築会議: 地方自治体 歯科医師会 中核拠点病院 拠点病院

講義実習: 拠点病院職員 歯科医師会会員
主たる内容 Standard Precautions 実施への知識と工夫
普及への教育資源の提供

実施地域

平成22年度に実施した地域

| | |
|---------------------|------------------|
| 九州北ブロック 福岡 長崎 佐賀 大分 | 7月23, 24日 |
| 北海道ブロック 旭川 | 9月3, 4日 札幌 11月6日 |
| 関東甲信越ブロック 新潟県 | 10月30, 31日 |
| 東海ブロック 愛知県 | 12月12日 |
| 中四国ブロック 広島県 | 2月6日 |
| 東北ブロック 秋田県 | 3月6日 |

平成23年度に実施した地域

鳥取県 ネットワーク構築会議 8月4日 鳥取市 鳥取県歯科医師会
「均てん化講演会」 9月25日 鳥取市 鳥取県歯科医師会
11月23日 米子市 鳥取大学

北海道南部地区 12月11日 函館

広島県ネットワーク講習会 11月27日 広島大学 広島県歯科医師会

九州地区ネットワーク構築会議Ⅱ 3月10日 11日 熊本県 宮崎県 鹿児島県

首都圏拠点病院および歯科診療ネットワーク会議 23年 1月7日 東京歯科大学

平成24年度に実施した地域

中国・四国ブロック 拠点病院会議 24年10月28日

大阪府 歯科医師会ネットワーク構築会議 24年12月9日

北海道 東部 釧路地区 25年2月16日

ブロック拠点病院⇒歯科医師会

広島県歯科医師会
会長 山科 達 先生
広島大学病院長

越智 光夫
(公 印 実)

第1回広島県歯科医師会の歯科医師及び院内歯科研修医のための
HIV感染症に関する講習会開催の案内

平成17年5月6日に厚生労働省医政局歯科保健課長から、「歯科医療機関におけるHIV感染者等の診療体制について(依頼)」(医政発 第0506001号、健疫発第0506001号)が出されました。その主な内容は、HIV陽性者等の診療を断る歯科医師が無いように、歯科医療従事者がHIV感染症についての正しい理解を認め、適切な感染防止策を講じることにより、HIV陽性者に対する歯科診療体制を整備することでした。

HIV陽性者に対する歯科診療体制の確立には、エイズ拠点病院と地域歯科医師会との連携が必要であり、広島県においては広島県歯科医師会がエイズ拠点病院からのHIV陽性者の歯科診療を受け入れるためのHIV歯科診療ネットワークが既に構築されています。このネットワークの構築は、HIV陽性者がより近所での歯科受診を可能とする前駆的な歯科診療体制の実現であると考えます。本邦では、HIV陽性者の数は増加しており、今後、この歯科医療ネットワークに参加する歯科医師の確保が必要です。

本院は厚生労働省が定めたエイズ治療のための中国四国地方ブロック拠点病院として、医療従事者のための教育・研修の役割を担っております。つきましては、広島県歯科医師会の歯科医師および院内の歯科研修医にご参加頂き、歯科医療従事者がHIV感染症についての正しい理解を認め、適切な感染防止策を講じることによってHIV陽性者の歯科医療確保にご尽力くださるよう、別紙の通り、講習会を開催したく存じます。皆様、お誘い合わせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

九州会議のプログラム

- 1: 「県庁・県歯科医師会・エイズ拠点病院によるHIV感染者歯科診療ネットワークに関する検討会」
開催日時 2010年7月24日 土曜日 午前10時30分から13時まで 2階 会議室
- 2: 「院内感染予防の知識と技術に関する均てん化会議」
開催日時 2010年7月24日 土曜日 午後2時から 5時まで 会場 2階 会議室

実施内容

講義の部 7月24日 午後2時から5時まで 会場 2階 会議室

- 1: HIV感染症の基礎 と 九州のHIV感染症事情 60分
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究
研究代表者 山本 政弘
国立九州医療センター-感染症対策室
- 2: HIV感染症と歯科医療 45分 吉川博政
国立九州医療センター-歯科口腔外科 部長
- 3: 研究班の目指す「均てん化」の内容 と 実習の準備 45分
歯科のHIV診療体制整備班 研究分担者 前田憲昭

- 3: 「実習の部」 7月25日 日曜日 午前10時から13時まで
会場 1階 歯科口腔外科



歯科医療を支える部門への働きかけ

歯科衛生士養成機関指導者セミナー実施
平成23年度 14校
10月15日 16日 大阪

歯科技工士養成機関指導者セミナー実施
平成24年度 15校
9月2日 3日 広島

HIV感染者・AIDS患者に対する歯科診療体制ネットワークの構築について(案)

本邦におけるHIV感染者、AIDS患者数は、年々増加傾向にあり、HIV感染者・AIDS患者の増加に伴い、HIV感染者に対する適切な歯科治療を受けることが求められている。しかし、実際には、歯科診療所の受入体制が不十分であり、HIV感染者が診療を受けられず、適切な治療を受けることができない状態となっている。また、HIV感染者の増加に伴い、地域における歯科診療体制の整備が求められている。また、HIV感染者の増加に伴い、地域における歯科診療体制の整備が求められている。また、HIV感染者の増加に伴い、地域における歯科診療体制の整備が求められている。



ネットワーク構築のまとめ(3年間)

構築のための会議を開催した都道府県

沖縄県、宮崎県、鹿児島県、熊本県、大分県、長崎県、佐賀県、福岡県、
広島県、鳥取県、岡山県、大阪府、愛知県、神奈川県、新潟県、群馬県、
千葉県、長野県、秋田県、北海道(札幌、旭川、函館、釧路)

歯科医師会を軸にネットワーク構築が完成した地域

東京都(83か所) 神奈川県 広島県(123か所) 北海道(23か所)
大阪府(144か所)

構築の初期段階にある地域

愛知県 鳥取県 島根県 徳島県

ネットワーク会議の開催希望

福島県 中核拠点病院(福島県立医科大学)
京都府 中核拠点病院(京都大学)

研究班が想定している歯科受診の実態

- 1: ネットワークを利用する
治療を受けている病院 → その病院の歯科
↓
ネットワーク → 地域の開業歯科医
↓
患者支援NGOのネットワーク
- 2: HIV治療を担当する病院が独自でネットワーク構築
(例 国立九州医療センター)
治療を受けている病院 → 地域の開業歯科医
- 3: 病院の医師の個人的繋がりで紹介を行っている
治療を受けている病院 → 地域の開業歯科医
- 4: 患者さんが自分で選択して歯科受診
患者さん → 地域の開業歯科医
HIV感染を告知して受診できる場合
HIV感染を告知できずに受診している場合



包括ケア体制の整備に関する研究 ーコーディネーターナースの立場からー

研究分担者 島田 恵

首都大学東京 大学院人間健康科学研究科看護科学域 准教授
(平成22年4月～平成23年6月)

池田 和子

独立行政法人 国立国際医療研究センター病院
エイズ治療・研究開発センター 看護支援調整職
(平成23年7月～平成25年3月)

研究協力者

¹渡部 恵子、¹大野 稔子、¹成田 月子、¹坂本 玲子、¹江端 あい、
²武藤 愛、²伊藤 ひとみ、³石塚 さゆり、³川口 玲、⁴山田 三枝子、
⁴高山 次代、⁵伊藤 明日美、⁵長谷川 真奈美、⁵羽柴 智恵子、
⁶東 政美、⁶治川 知子、⁶下司 有加、⁷西坂 理絵、⁷木下 一枝、
⁷鍵浦 文子、⁸長與 由紀子、⁸城崎 真弓、⁹小池 芳子、⁹前田 愛子、
¹⁰木下 真里、¹⁰塩田 ひとみ、¹⁰高橋 南望、¹⁰小山 美紀、¹⁰八鍬 類子、
¹⁰伊藤 紅、¹⁰杉野 祐子、¹⁰大金 美和、¹⁰岡 慎一、¹¹石垣 今日子、
¹¹徐 廷美、¹¹山田 由紀、¹¹武田 謙治、¹²島田 恵

¹ 北海道大学病院

² NHO仙台医療センター

³ 新潟大学医歯学総合病院

⁴ 石川県立中央病院

⁵ NHO名古屋医療センター

⁶ NHO大阪医療センター

⁷ 広島大学病院

⁸ NHO九州医療センター

⁹ 独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 看護部

¹⁰ 独立行政法人国立国際医療研究センター病院

エイズ治療・研究開発センター(ACC)

¹¹ 元独立行政法人国立国際医療研究センター病院

エイズ治療・研究開発センター

¹² 首都大学東京

研究要旨

コーディネーターナースの立場から包括ケア体制を整備するために、1. 確実な医療（ケア）の提供のための取り組み、2. 「包括ケア」均てん化のための取り組みを行った。HIV感染症患者が通院する医療機関ではHIV感染症に関する専門的知識やその技術に関する身体・心理・社会的な課題を包括するスキルを持つ看護師の配置が期待されている。治療・療養の長期化に伴いHIV感染症以外の健康問題を有する患者の増加により院内はもちろん、院外の医療・保健・福祉との連携が不可欠であるが、受け入れ経験がない場合には医療情報（療養経過や感染管理等）に関する知識不足が多い。多くの医療機関では看護師がもっとも多く研修講師を勤め、受け入れ体制整備や連携促進に貢献していた。今後も看護師の配置促進と次世代育成は急務であり研修参加の情報提供や、研修受講後のコンサルテーションシステム構築、テキスト作成を行った。我が国では患者が一部の医療機関に集中しており、必然的に医療やケア体制にも影響している。患者数の多い施設での先駆的なケア実践の取り組み（外国人、女性、結核、在宅療養支援、透析）をもとに他機関・多職種との連携し、患者が安心して療養継続ができる環境整備のために支援のネットワーク強化を継続していく。

A. 研究目的

本研究では、コーディネーターナース（以下、CN）の立場から包括ケア体制を整備するために確実な医療（ケア）提供とその均てん化を目標として、下記の研究に取り組んだ。

1. 確実なケア提供のための取り組み

- (1) 外来における長期療養支援に関する調査
 - ① 治療安定期の外来療養支援の検討
 - ② 在宅療養支援の検討
 - ③ 血液透析の連携支援の実際
- (2) 新規HIV感染者の性的接触者に対するHIV抗体検査受検に関する調査
- (3) HIV/AIDS患者のセルフマネジメントに関する調査
- (4) 外国人患者に対するケア支援方法の検討
- (5) 女性HIV感染症患者の婦人科疾患合併の実態調査
- (6) HIV合併結核患者の入院状況からみたケア支援の検討

2. 「包括ケア」均てん化のための取り組み

- (1) ACC/ブロック拠点病院エイズケア研修のポスター配布による研修推進

- (2) HIV/AIDSケア・メーリングリストによるコンサルテーション
- (3) HIV/AIDS看護体制に関する全国調査
- (4) HIV感染症看護（基礎研修編）テキストの作成

B. C. D. 研究方法・目的・結果・考察

1- (1) ①治療安定期の支援検討

目的：治療安定後、医療を継続する患者の長期療養支援である「外来療養支援」の検討

方法：ART開始後安定しているHIV/AIDS外来通院患者の療養実態に関する調査

対象：2010年6月1日～7月30日のACC外来受診患者のうちPhase7（ART開始後6か月以降）に該当し、面接時HIV-RNA量が検出限界未満であったMSM23名。

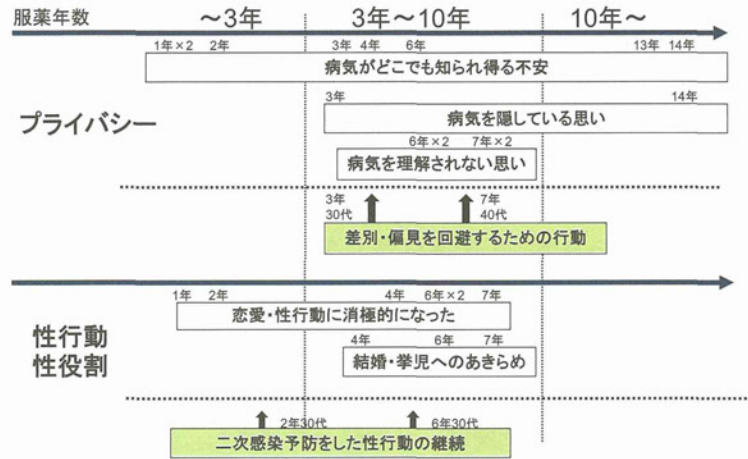
方法：対象に行ったフォローアップ面接の内容について、診療録調査、担当CNへの聞き取りを行い、治療や疾患に関連した療養生活上の事象について述べている文脈を抽出し、内容ごとにグループ化・抽象化した。

結果：Phase7（ART開始後6か月以降）の患者は、病状や経済面、人間関係など、療養の基盤が概ね安定しているものの、様々な課題があること、それら

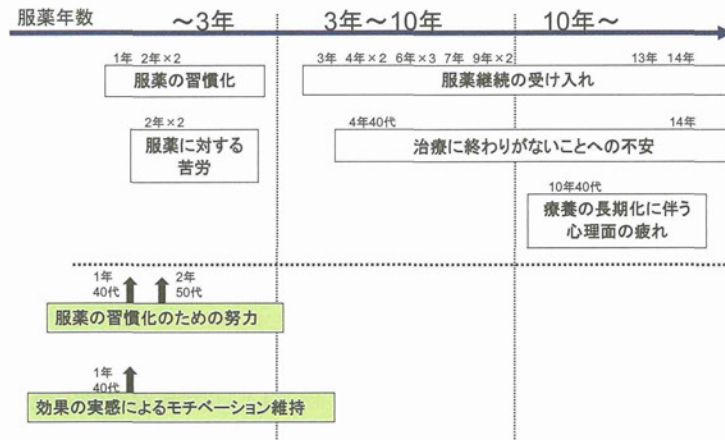
に自分なりに対処していることが分かった。これらの課題は、療養行動に影響する可能性があるため、モニタリングを継続し、影響の予防や早期発見につながるケアが必要である。

服薬年数の経過および年齢による課題や不安内容

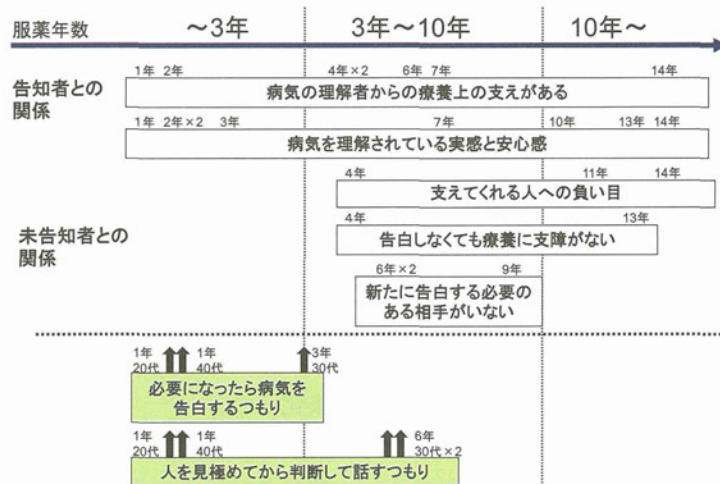
の変化がみられた。患者の服薬年数や年齢により、焦点を当てるケアの優先順位をアセスメントし、他の患者との経験の共有や相談先の情報提供など、患者にあわせたケアが必要である（結果1～4）。



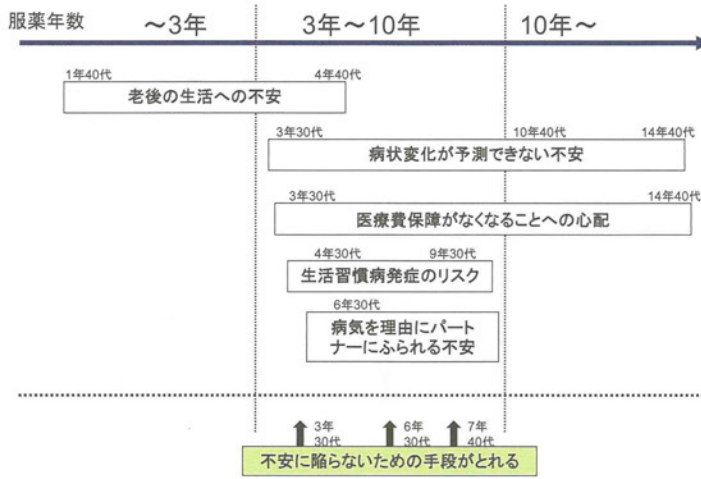
結果1 プライバシー、性行動・性役割に関する変化



結果2 服薬に関する変化



結果3 人間関係に関する変化

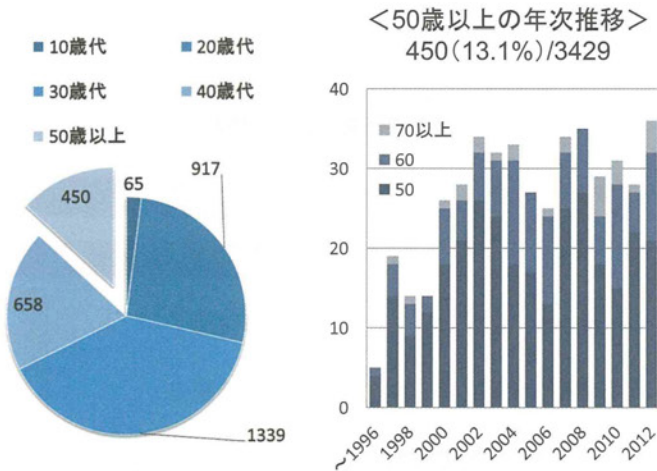


結果4 将来に対する不安の変化

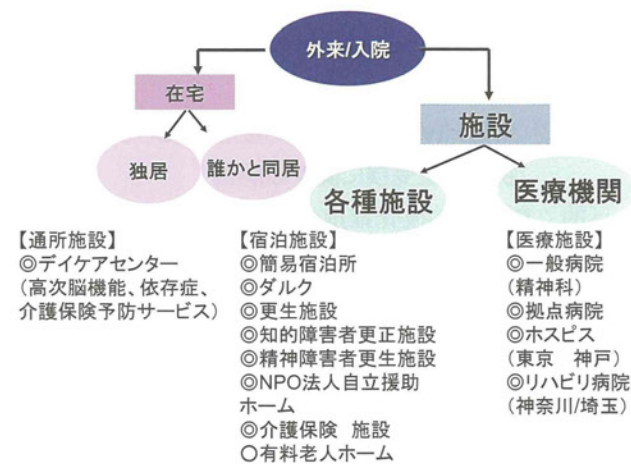
1- (1) ②在宅療養支援の実態

目的：治療安定後、医療を継続する患者の長期療養支援である「在宅療養支援」の検討
 対象：ACC通院中の患者のうち、地域スタッフと連携した症例に関する診療録調査
 結果：在宅療養支援導入者の利用時年齢は20~40歳代が7割を占め、介護保険ではなく、医療保険/障害者自立支援法を利用していた。介護保険利用者14

名のうち、40歳以上の2号保険者は8名であり、今後も増加が予測される特定疾患（脳血管障害、糖尿病関連）での申請であった。ケア経験のない訪問看護や施設入所利用に向けてCNによる研修会を個別に開催し、その後もフォローアップの相談に対応することを保障し受け入れがスムーズになった（結果5~7）。



結果5 初診時年齢 N=3429



結果6 施設連携実績



結果7 在宅療養支援導入者の年次推移

1- (1) ③血液透析の連携支援

目的：血液透析患者の連携支援の検討

方法：2012年末までに透析導入した患者の受け入れ準備および経過について診療録調査。

結果：10名がHIV合併しながら維持透析を行っていた。血液透析患者は2パターンあり、ひとつは既に維持透析を行っていて何らかの理由によりHIV抗体陽性と診断されたもの、もうひとつはHIV診断後、腎不全で維持透析を開始した患者である。2012年12月末現在で6名が継続し（うち2名は転院）ていた。

HIV診断以前に維持透析を受けていた場合は、その後転院することなく継続的に維持透析を行っている。しかしシャント増設後に維持透析の場合は、腎臓内科経由で患者宅や職場近くの透析クリニックに紹介転院して頂く。受け入れ準備などで研修や資料の郵送などを行う必要があった。

患者の高齢化や併存疾患（糖尿病、高血圧症など）を有する患者の増加、抗HIV療法の長期化により透析クリニック連携症例は増えていくと考えられる。随時、研修会などの開催や受け入れ後のフォローアップ体制支援を検討する。また長期療養、高齢化に合わせ、HIV感染症患者にはHIV感染症の疾患管理とあわせ食事、運動、禁煙などの生活習慣改善に向けたケア支援が不可欠であると考えられた。

1- (2) 新規HIV感染者の性的接触者に対するHIV抗体検査受検に関する調査

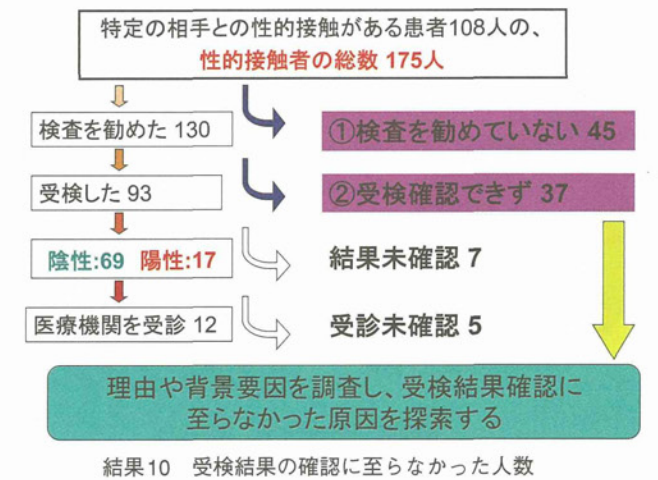
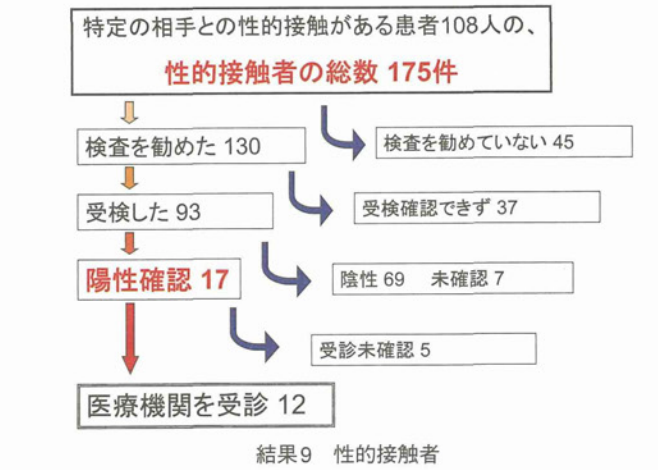
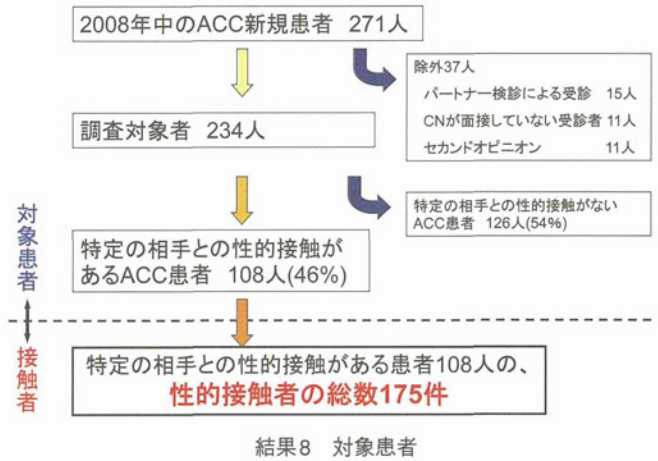
目的：HIV抗体検査推進のため、HIV/AIDS患者の診療を行っている医療機関の医療者ができる支援について検討する。

方法：2008年1月～12月のACC新規患者271名中、除外基準に合致した37名を除く234名を対象に、初診から1年間の外来・病棟診療録から、性的接触者の抗体検査に関する経過を調査した。

結果：HIV感染者の性的接触者にHIV抗体検査を勧めることは、感染の早期発見に有効である。

しかし、性的接触者を特定出来ない場合が多く、特定できる相手であっても支援が届きにくい現状があることが明らかになった。

医療者は、公衆衛生・性的接触者の健康保持の観点から、HIV抗体検査受検を意識的に勧め、結果の確認までを一貫した支援として行う必要がある。一方で、患者の精神面に十分配慮した問診の工夫、病気を告げる支援も併せて実施していくことが大切である（結果8～11）。



| | |
|-------------------------------------|---------|
| 本人が病気を告白せず | 8 (22%) |
| 本人が性的接触者に連絡とれず (元配偶者3名、元パートナー2名) | 6 (16%) |
| 性的接触者が受検せず | 4 (11%) |

医療者が確認せず 19(51%)
3カ月以内に抗HIV療法を開始:7名
2カ月以内に転院:2名、海外居住:2名、不定期受診:1名

結果11 受検を確認していない理由